

教科	社会（小）
主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けたポイント	
<p>(1) 問題解決的な学習過程の充実 単元などにおける学習問題を設定し、その問題の解決に向けて諸資料や調査活動などで調べ、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして表現し、社会生活について理解したり、社会への関心を高めたりする学習を充実させる。</p> <p>(2) 単元等のまとまりを見通した学びの重要性 主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではない。単元など内容や時間のまとまりの中で、例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するのか、対話によって自分の考えを広げたり深めたりする場面をどこに設定するのか、といった視点で授業改善を進めることが求められる。</p> <p>(3) 問いを意識する 問いとは、調べたり考えたりする事項を示唆し学習の方向を導くものであり、単元などの学習の問題はもとより、児童の疑問や教師の発問などを幅広く含むものである。教師が資料等を準備する際には、社会的事象の見方・考え方（「位置や空間的な広がり」「時期や時間の経過」「事象や人々の相互関係」などに着目して（視点）、社会的事象を捉え、「比較・分類したり」、「総合したり」、「地域の人々や国民の生活と関連付けたり」すること（方法））に基づいて問いを意識することが大切である。</p> <p>(4) 言語活動の充実 社会的事象の特色や意味、社会に見られる課題などについて、多角的に考えたことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなど言語活動に関わる学習を一層重視することが大切である。</p> <p>(5) 実社会の人々との連携 博物館や資料館などの施設の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などについての調査活動を取り入れるようにすること。また、内容に関わる専門家や関係者、関係の諸機関との連携を図るようにすることが大切である。</p>	

教科	社会（中）
主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けたポイント	
<p>(1) 問題解決的な学習過程の充実 単元など内容や時間のまとまりを見通した「問い」を設定し、「社会的な見方・考え方」を働かせることで、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したりする学習を一層充実させる。</p> <p>(2) 単元等のまとまりを見通した学びの重要性 単元など内容や時間のまとまりの中で、例えば主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するのか、対話によって自分の考えを広げたり深めたりする場面をどこに設定するのか、といった視点で授業改善を進めることが求められる。</p> <p>(3) 問いを意識する 問いとは、調べたり考えたりする事項を示唆し学習の方向を導くものであり、単元等の学習の問題はもとより、生徒の疑問や教師の発問などを幅広く含むものである。教師が教材や資料を準備する際には、各分野における見方・考え方を踏まえた問いを意識することが大切である。</p> <p>(4) 言語活動の充実 社会的な見方・考え方を働かせることをより一層重視する観点に立って、社会的事象の意味や意義、事象の特色や事象間の関連、社会に見られる課題などについて、考察したことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなどの言語活動に関わる学習を一層重視する。</p>	

「深い学び」を具現する授業デザイン例 社会（小）

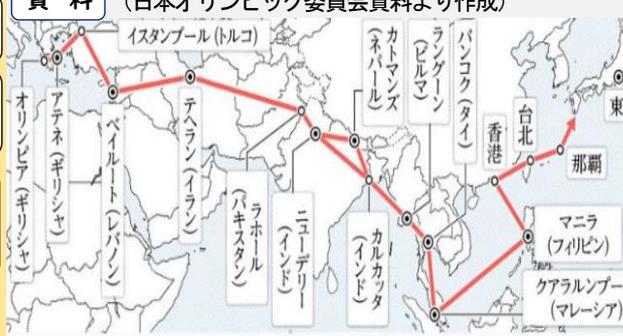
学習指導要領における領域・内容

小学校 〔第6学年〕

- (1) ア (サ) 日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解すること。
- イ (ア) 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。

本時のねらい

オリンピックの聖火が東南アジアを通過して日本に運ばれた理由を話し合う活動を通して、戦後日本が平和で民主的な国家として出発し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを考え、表現することができる。

授業デザイン例	学習者の視点	授業者の視点
<p>2020大会の聖火もスタートは同じだよ。</p> <p>2020大会はギリシャから飛行機で宮城県に運んだそうだよ。</p> <p>その方が早いね。でも、どうして1964年はこのルートを通したのだろう？</p> <p>わざわざ遠回りしている気がする…。</p> <p>(利彦さん)</p> <p>(明美さん)</p>	<p>資料 (日本オリンピック委員会資料より作成)</p>  <p>利彦さん、明美さん確かにそうですね。聖火がこの都市を通ることに何か意味があったのでしょうか。</p>	<p>東京2020大会は、福島県のJヴィレッジから日本国内の聖火リレーが始まりましたね。前回の東京大会では、1964年8月21日にオリンピックをスタートした聖火が「資料」のルートを通り9月7日に沖縄（那覇市）に到着しました。</p>
<p>④ 1964年の大会では、どうして遠回りしてまで東南アジアを通過して東京に聖火を運んだのかな？</p> <p>【その後の話合い例】</p> <p>教科書の地図を見ると東南アジアは、太平洋戦争で戦場になったよね。</p> <p>確かに1964年の20年前、このあたりは大きな被害があった場所だね。</p> <p>「アジア初」の開催をアジア各国の人たちと喜びたかったのかな。</p> <p>確かにこの頃、アジア各国で植民地支配から独立したばかりの国々がたくさん参加していることも関係しているのではないかな。</p> <p>戦後、日本が平和になったことを伝える意味もあったのではないかな。</p> <p>なるほど。原子爆弾が投下された日に、広島で生まれた坂井さんが平和の象徴である「聖火」を運ぶことで、戦後、日本が平和になったことを示そうとしていたのかもしれないよ。</p> <p>⑤ 東京オリンピックをきっかけに、アジアの国々をはじめ、世界各国に日本が平和で民主的な国として出発したことを伝えようとしていた。</p> <p>東京オリンピック前後の年表を見たり、友だちの考えを聞いたりして、聖火が東南アジアを通る理由が分かりました。原子爆弾が投下された日に生まれた坂井さんが成長した姿を全世界に見てもらえてよかったです。(子どもの「振り返り」より)</p>	<p>⑥ 視点を</p> <p>多くの資料から総合的に考えていますね。ちなみに最終聖火ランナーの坂井義則さんは「1945年8月6日広島県生まれ」です。この事実からどんなことが考えられますか。</p> <p>※ 子どもの必要に応じて1964年大会の映像資料等を提示する。</p> <p>自分の考えの根拠や歴史学習を通してもった自分の感想をしっかりと振り返っていますね。</p>	<p>まずは、自分の考え（予想）を書いてみましょう。</p>

本時における「深い学び」を具現する仕掛けや発問

- 本時は単元の後半部分における1単位時間を想定し、これまでの学習（前単元の内容も含む）で獲得した知識・技能を活用した話合いの場面である。資料を見て生じた子どもの「違和感」から「問い」を引き出し、全体で共有する。時期や時間の経過（年表や各年代の地図資料等）、事象同士の相互関係（聖火ルートと時代背景等）に着目し、それらを比較・総合したり、関連付けたりする話合いを通して、歴史的事象の意味を考え、表現する活動につなげる。その際に、子どもの必要に応じて写真や映像等の資料を提示することで、話合いを補完することができるようにする。（視点〇ー視点①①）